

# 2017年度 日本気象学会東北支部第1回理事会 議事録

日時：2017年5月8日（月）15時00分～17時20分

場所：仙台管区気象台第1会議室

出席：大林、藤田、桜井、岩崎、境田、青木、福山、杉山、名越（以上理事）、小池（会計監査）、山崎、岩淵、斎藤、武樋（以上幹事）（敬称略）

欠席：和田（以上理事）（敬称略）

司会：桜井理事

## 議題1．事業等の担当理事の補充

- ・事務局（案）のとおり承認した。
- ・支部気象講演会担当の和田地方理事のみ新任。本日和田理事は欠席ではあるが了解頂いている。

## 議題2．2016年度事業報告及び会計報告

- ・議案のとおり。

## 議題3．2016年度会計監査報告

- ・議案を承認した。

## 議題4．2017年度事業計画及び予算

- ・東北支部だよりと2017年度予算案についての修正を含む形で、議案を承認した。

### （1）2017年度事業計画

#### 1）東北支部気象講演会（議案および別添1参照）

- ・持ち回りで開催する方針を残しつつ、開催県の都合に柔軟に対応する。
- ・今回は秋田県での開催。秋田地方気象台との検討で別添1のとおり、日程・テーマ等の原案を設定したので審議いただきたい。
- ・秋田大学とも連携するような形で集客を頑張ればと思う。
- ・10月30日から札幌で開催予定の秋季大会の直前（10月28日）というスケジュールは問題ないか？主として一般の方を対象としているので、問題ないと思う。引き続き準備を進めていただく。

#### 2）東北支部気象研究会（議案および別添2参照）

- ・今年度の気象研究会の概要、開催に向けた広報内容等を確認いただきたい。
- ・発表者の交通費一部補助はできる範囲で継続していきたい。
- ・学生への交通費補助について、多数応募があった場合は、予算範囲内で一部補助するということか。  
予算は決まっているので、遠いから全部出すというのではなく、交通費を地域によって定めて一律に按分して支給する方針を事務局で検討している。

3) 東北支部だより (議案および別添 4 参照)

- ・支部だよりの電子化 (議題 6 (2) 参照) に関する議論をもとに、議案の一部を修正した。

5) 支部強化基金による活動 (議案参照)

- ・昨年度は担当者でワーキングチームを立ち上げメールベースのやり取りを行い、十分な準備ができたので、今年もそれに準じた形で準備を進めたい。
- ・今回は東北大学の学生がファシリテータとして中心的な役割を果たしてくれて大変良かった。
- ・これまで以上に広報に力を入れて取り組んだのが良かった。
- ・なるべく、新しい人に来てもらいたい。

6) 日本気象学会奨励賞などへの推薦

- ・大会発表があった研究や「天気」への記事掲載などを指標とし、今年は候補を見つけたいと考えているところである。気象台の地区の研究等のなかで「この人に頑張ってもらいたい」というものを探したい。この人をというのがあるれば、相談させて頂ければと思う。気象台ももちろんそうだが、民間気象会社の方も含め、間口を広げて探したい。
- ・支部から推薦があったものの中でさらに選考がかけられるのか。  
支部から推薦されたものは、気象研の高藪氏のところに集約され、委員のところに候補者が奨励賞に該当するかどうかの照会が来る。その返答を高藪氏が集計し、OKを出す。今回候補としてあがってきたのを見ると、これだけの調査研究をしている、ここには投稿もしているという格好で、納得できる。そして、いわゆる研究者の属性ではないが一生懸命頑張っているというものである。

(2) 2017年度予算案 (議案参照)

- ・支部強化基金の活動会計について、2017年度予算額のうち、気象予報士会分担金を10,000円から20,000円に増額し、資料印刷費と会場費開催費をそれぞれ30,000円から35,000円に増額する修正を加えたうえで、事務局案を承認した。

[個別意見]

- ・他の支部では繰越金 (剰余金) がかなりあり、公益社団法人としてよろしくないということが指摘されているが、東北支部は単年度予算のなかで基本的にやりくりして繰越金があまり多くない状況。
- ・支部強化基金による活動会計で、気象予報士会東北支部分担金が10,000円となっているが、今年も20,000円程度を支払い、その分広報やパンフレットを充実して頂けるのであれば、そちらが望ましいのではと思う。
- ・サイエンスカフェの広報を充実したらという話だが、広報費用というのは支出のなかではどこに入るのか。  
資料印刷費としている。  
昨年度はデザイン等をワーキングチームで作成・確認し、印刷だけ外注して配布したということである。昨年度は高校を新たに広報先として加えたので、印刷の部数が増えた。

議題 5 . 2018年度秋季大会準備委員会の立ち上げ等の確認

- ・準備委員会の人選を 2017 年度春季大会 (5 月 25 日 ~ 28 日) の前までに行い、大会翌週くらいには初回会合を持って予算案や外注方法の検討など、具体的な課題の洗い出しを行うことを目標とすることを確認した。

[個別意見]

- ・今年の秋に実行委員会を立ち上げる予定だが、7 月までに日程と予算の案を作成して本部に連絡する必

要があるなど、案を作成しなければならない事項がいくつかあるので、準備委員会を作って検討したい。作成した案は支部理事会の皆さんにメーリングリスト等を使って共有し、確認をとれないか検討中。

- ・スケジュールリングのこともあるので、消化すべきことを具体的な形にして共有してほしい。問題点があればいろいろと知恵も出せる。

昨年2月の理事会で行動計画案をお示ししている。7月に予算と日程案を本部に送った後、9月に準備印会で実行委員会のメンバーや役割分担について決めたいと考えている。10月には札幌の秋季大会の視察を行いたいと考えている。

- ・実行委員会は大会開催の1年前をメドに立ち上げるにしても、その前の段階の準備委員会で具体的なことを煮詰めていってほしい。
- ・準備委員会の人選は？  
中心になって進める大学側から教員を数名出すことを考えているが、他に協力いただける方がいればご協力を仰ぎたい。理事会メンバー以外の先生に入ってもらえることも検討したほうがよいか。役割分担を決めて進めていく必要があり、それなりの人数や体勢にすべきと思う。
- ・予算は運営方法で大きく変わってくる。まず、何を外注に頼るのかを具体化する必要がある。具体化したらそれを引き受けてくれるような業者を探し、見積もりをもらうことで予算が具体化でき、学会側で面倒を見なければならない部分もはっきりするなど、大枠が見えてくると思う。何が必要なのかは札幌が立てた計画も参照すればよいと思う。そういった観点からも、具体的な問題を扱える人に準備委員会に入ってほしいと思う。
- ・会場の性質の違いから、札幌と全く同様な形での外注は難しいと考える。また学会のお金の管理で气象台が大変苦労していたので、その部分を何とか外注にもっていけないかと思う。どこまで外注するかをよく考えて、全体の予算を抑えつつ適当な業者が見つかるかなどいろいろ検討する必要がある。
- ・まずは气象台と大学側からそれぞれ数名を出して準備委員会を立ち上げ、予算案の検討を行ってほしい。予算面の本部との調整等が必要なことから、事務局側からも準備委員会に加わらせていただきたい。省力化については气象台側からも意見をもらいたいと考えるので、是非加わってほしい。準備委員会の委員長については、大学側から出したいと考えている。  
準備委員長については大学側にお願いする。气象台からは事務局ともう1名位委員を出したい。
- ・準備委員会は、メールや電話をベースとし、必要なときに会合を開くことにしたい。  
メールだと議論にかえて時間が掛かることもあるので、会合が必要な場合もある。  
最初の課題の洗い出しの際には集まるべき。物事が動き出したあとの進捗報告はメールでも良い。
- ・2017年度春季大会の翌週に準備委員会第1回会合を持つことを目標とし、メンバーをそれまでに選考し岩淵さんのところに集約する。  
メンバーは学会前までに決め、その上で日程調整してほしい。

## 議題6 . その他

### (1) 支部長会議の概要報告 (別添3参照)

- ・北海道支部で支部設立60周年記念式典を3月16日に実施したそうだが、東北支部も今年設立60周年を迎える。  
仙台では25周年と50周年の際に記念式典を実施している。
- ・第1回評議委員会で、評議委員から地球観測に関する現状と課題の提起があったが、気象学会としての長期戦略が必要な内容である。目先で対応するのではなく、地球観測のありかたに関する提言をひとつまとめるような方向で考えていけたらと思う。
- ・会費の見直し検討については、次の支部長会議で案が示されて議論され、支部にも意見照会がある見込みなので、本理事会でも検討をお願いしたい。
- ・会費の値上げについては、学会員をどう増やしていくかという議論とセットでなされるものと思うが、会員を増やすための活動強化や方向性についての議論はあったのか。

今回はあまりなかった。東北支部における研究会の交通費補助など、それぞれの支部の取組が報告された程度。

- ・本部では、経費削減努力をしたうえで、サービスの向上とセットで値上げを進められればと考えており、その内容について鋭意検討中である。

## (2) 支部だよりの電子ファイル化について

- ・別添4に示された事務局からの具体手順の提案をもとに議論を実施した。議論の結果、現時点で完全電子ファイル化に向けた具体を議論するのは時期尚早であり、一定程度の郵送希望会員がいた場合について改めて議論するなど、会員の不利益とならないよう検討を続けることになった。そのうえで、次号の第85号は、郵送に加え既に気象学会に電子メールアドレスを登録している会員に対してメールでのお知らせを送付するという試みを行うこととした。

### [個別意見]

- ・サービスの低下になると思うので、事務局からのお願いの最後にご意見あれば事務局までと書き加えるなど、何らかの意見を聞くメカニズムがあるとよいのではないかと思う。
- ・移行期間の経費の見積もりだが、前回発行した84号については約9.5万円の費用がかかった。内訳としては約7.5万円が印刷費用で、約2万円が発送費用（単価100円×約200件）である。印刷の費用については、発行部数が減ったからといって金額があまり変わらないという見積もりを頂いている。移行期間中は印刷を継続する以上、約7.5万円分の費用はあまり変わらない。ただ、発送数が減少すれば、その数に応じて発送費用は減少する。また、完全電子化ということになると、編集等についても同様に（今の業者に）発注を続けることが可能だとすれば、その費用の見積もりは約4.5万円と出てきている。
- ・電子化した場合に、年々ある異動に伴うメールアドレスの追跡、修正は本部がやってくれるということか。会員がきちんと変更手続きをしないとフォローされず、段々届く数が減ってしまう懸念がある。  
メールアドレスの登録が住所変更などとセットになっているそうなので、大丈夫かと思う。  
住所の変更に関しては「天気」の発送先の登録変更ということもありそれはやって頂いているのではないかと思う。
- ・メールで届いたものをきちんと見るかという問題がある。実は会員として毎回自分から見に行くというのが億劫で見ないが、逆に郵送されてきたものだったら見ますという人が結構いるという話である。そのため、郵送を完全に無くさないほうがいいのではという議論もある。会員の皆さんの意向をきちんと把握し、慎重に検討すべきではないか。
- ・支部だよりの電子化に伴って、支部から支部の会員にお知らせを投げられる環境ができる。行事についてもお知らせをするなり、情報を支部会員間で共有するような環境として活用していけるというようなメリットは少し出していったほうがいいのではないかと思う。現在年2回の支部だよりが会員の情報共有のメインになっているので、それにプラスして関連するイベントをお知らせするような環境をセットしてもらえればと思う。
- ・会員が少なくなってくるなかで、潤沢とはいえない予算でやりくりしていくことが命題のひとつ。「印刷しないと読まないよね」というところもあるが、今号にはこういった内容を掲載しているので、関心のある方は是非ご覧くださいというように、お知らせの出し方も一工夫二工夫が必要だと思う。年2回の支部だよりのお知らせに加えて、サイエンスカフェや気象講演会といった情報もぜひタイムリーに共有します、そういった使い方もしますので情報共有環境はよくなりますということを言い添え、全体的に見て電子化したほうがプラスじゃないかという考え方で会員の皆さんの理解をいただきたいと思う。
- ・慣れや経過時間というのも重要であり、登録状況を見ながらある程度最終的な判断は先延ばしすることはあってもよいのではないかと思う。会員の減少に油を注ぐことのないように考える必要

がある。

- ・ 気象会社から情報を送るときは、メールや電話でパソコンを見てくださいというものもあるが、意外とFAXが生き残っている。電子化前提というのはまずいのではと考えている。おそらく、15%位は紙でないともえられないという人がいるのではないか。長期的には電子化がよいかと思うが、何がしかの意見を取り入れながら進めるべきだと思う。
- ・ 雪氷学会の東北支部でもニュースレターを作成しているが、約100通のうち15~20通は郵送希望者である。気象学会でもそれ位あるかもしれない。
- ・ 議論を聞いていると、電子化されると困るという方がいらっしゃり、電子化で削減できるのは4万円という話も聞き、時代の趨勢に逆らっても残したらという気持ちにもなる。予算案を見ても4万円削減して助かるというものではないとも感じないではない。
- ・ 積極的に要らない、送りつけてこないほうがいい人もいる。移行期間については、登録してきた人については送らないというのは正しいと思う。
- ・ 郵送がある場合は1回あたり2万円の減だが、完全電子化すれば1回あたり4万円の減となるので8万円の減になる。印刷を残す限りは経費削減額が小さく、完全に電子化しない限り経費削減のインパクトは小さい。
- ・ メールアドレスを試しに利用してみて、そのなかでサイエンスカフェを告知したり参加申し込みを受け付けてみたりすることで、メールというツールを活用することがお互いにとって便利だという雰囲気づくりができたらとも思う。直ぐさま会員数が激減して収入が減るというわけではないが、遠くない将来に電子化が避けられなくなると見込まれるため、このタイミングで電子化の方向性を会員に投げかけたいと考えている。
- ・ 希望する会員にはメールでの送付を行うということについては来年から始めてもよいのではないかと。移行期間は選択できる期間となり、電子希望者にとっても郵送希望者にとっても不利益は生じない。ただ、メールを登録しているけれど郵送してほしい人もいることには留意が必要だと思う。郵送不要とする人に申し出てもらうことにするのか。そうするとメールアドレスの管理が大変になるのでは。160名程度の会員の6割程度と考えれば、驚くほど大変というわけではないと思うので、会員の意向を踏まえて進めるということを考えれば、要らない人に連絡してもらってもよいのでは。
- ・ 支部だより85号または86号から、現在メールアドレスを登録している人にメールを送付し、そのことを支部だより85号で事前または同時に通知する。その様子を見て来年度以降にメールアドレス登録のお願いを行うという方針ではどうか。メールの送付には学会のメーリングリストを使うのか。それは選択肢の一つである。そうすると、メールアドレスを登録している人は支部会員向けのお知らせを既にメールで受け取ったりしているのか。[tohoku-members]という本部で管理しているメーリングリストがある。本部との調整次第だが、十分に利用できる可能性がある。いまは本部に承認された内容だけが支部会員向けに送付され、会員が自由にはメーリングリストに配信できないようになっている。
- ・ メールアドレスの登録をお願いするからには、行事のお知らせを流す、研究会の題目や要旨を事前送付するなど、メールアドレスを登録することで会員がメリットを受けられるようなサービスを並行して提供すべきだと思う。アドレス登録のお願いの際には、具体的には言えないがそうしたサービスを検討していますということを書き添えてはどうか。

以上